

受験生の皆さんへ

第1次試験の合格、おめでとうございます！

また、数ある就職先の中から海上保安庁を選んでいただき、ありがとうございます！

海上保安庁は、海上や沿岸における犯罪の取締りや海上交通の安全の確保、海難救助といった海の“警察”や“消防”のような役割のほか、海洋環境保全や海洋調査など、海上における様々な役割を担っています。

海上保安官はその言葉通り、働く拠点の多くは海から近い場所にあります。船の上で働く人は海上保安官の約半数であり、残りの半数



は陸や空で働いています。海や空といったこれまでに経験のないフィールドでの業務となり、一步誤れば重大な事故や怪我につながる可能性があるため、これを防止するために海上保安学校や現場において、安全管理に関する指導が行われ、経験の浅い職員の事故防止についての対策が図られています。



本紙は海上保安学校での生活や教育内容及び卒業後の勤務形態等について皆さんに知っていただき、入庁後の認識相違によるミスマッチを防ぐことを目的としています。**第2次試験当日までに必ずお読みください。**

また、内容について質問のある方は、第2次試験の人物試験時に試験官にお尋ねください。

1 教育内容等

海上保安学校では、海上保安庁の一般職員に必要な学術及び技能を修得し、あわせて心身の錬成を図るため、**1年間の教育訓練を行います。**

入学しても、学業成績が不良で成業の見込みがない者は卒業できません。

(教育科目等)

法律、海上犯罪捜査、海難救助等の海上保安業務科目、航海・機関・通信・主計・航空整備の各コースの専門科目、武道、制圧術、端艇、武器操法、水泳等の訓練科目、乗船実習等

2 学生生活

海上保安学校は全寮制で、「班」単位となり、同じ自習室・寝室で生活することとなります。

学生生活を通じて、海上保安官に必要な精神、規律、責任感、協調性、気力、体力の錬成を図ります。

入学金、授業料等は一切不要で、学生生活に必要な制服や寝具等は貸与されます。教科書、食費、身の回り品等は自己負担ですが、国家公務員として**毎月約21万円の給与等が支給されます。**

3 配属管区・履修コース（航海・機関・通信・主計・航空整備のいずれか）の決定

履修コース及び航海・機関・通信・主計コースの配属管区は、第2次試験時に提出していただく「調査票」をもとに採用時に決定します。(末尾の「海上保安庁関係施設」により各管区の管轄区域を参照してください。)

航空整備コースは配属管区という枠組みがなく、全国転勤となります。(末尾の「航空機の配備状況」を参照してください。) 個別事情に応じた配属管区となるよう可能な限り調整しますが、採用予定者数の状況により、希望のコース及び配属管区にならない場合もあります。なお、**決定後のコース及び配属管区の変更は、原則認められません。**



4 卒業後の勤務地等

(1) 勤務地について

本人の希望を尊重しますが、必ずしも希望通りにはいかない場合があります。また、概ね3年毎に配属管区内または全国（航空整備コースに限る）での転勤（僻地勤務を含みます。）があります。

(2) 勤務内容について

① 航海・機関・主計コース

巡視船艇の職員として勤務し、下記のような巡視船艇の運航業務や海上保安業務（※1）に従事します。海上という特殊な環境下での業務となるため、荒天下での危険な作業を伴う場合もあり、また、これら業務遂行のためには力仕事、汚れる作業等を行わなければならないこともあります。



航海コース：船艇の運航及び整備（操舵、見張り、ロープ作業及び船体整備等）

機関コース：機関の運転及び整備（エンジン、発電機、配電盤等の機器類の操作及び整備等）

主計コース：調理及び一般事務（調理、経理、補給、庶務等）

② 通信コース

卒業後、資格（第二級陸上無線技術士）取得のため、約4か月間の研修を行います（*）。その後、巡視船や航空基地の職員として勤務し、海上保安業務（※1）や巡視船の通信機器の運用、保守（他の船舶や航空機との通信、通信機器の保守及び整備等）といった巡視船における運航業務、航空機の運航業務（ヘリコプターもしくは飛行機に乗り組み、通信機器の運用、レーダーによる探索、映像伝送など）に従事します。海上もしくは航空という特殊な環境下での業務となるため、高所などでの危険な作業を伴う場合もあり、また、これら業務遂行のためには力仕事、汚れる作業等を行わなければならないこともあります。



* 第二級陸上無線技術士以上の資格を保有している場合は、研修を行いません。

③ 航空整備コース

全国にある海上保安航空基地及びヘリコプター搭載型巡視船のいずれかに配属され、海上保安庁の航空整備士として、航空機（ヘリコプター、飛行機）の整備を担うとともに、航空機の運航要員として搭乗し、海上保安業務（※1）にあたります。ヘリコプター搭載型巡視船に配属となった場合、諸当番などの運航業務にあたります。航空という特殊な環境下での業務となるため、高所などでの危険な作業を伴う場合もあり、また、これら業務遂行のためには力仕事、汚れる作業等を行わなければならないことも多くあります。



また、航空整備士という特殊業務の人材である観点から、基本的に国際捜査官や航空通信士などの職種に進むことはできません。

(※1) 海上保安業務例

- | | |
|-----------|---------------|
| ア 領海警備 | オ 海洋環境の保全 |
| イ 海洋の秩序維持 | カ 海洋調査 |
| ウ 海難の救助 | キ 海上交通の安全確保 等 |
| エ 海上防災 | |

(3) 巡視船艇勤務について

海上保安学校一般課程卒業者はその多くが巡視船艇での勤務となり、巡視船艇職員の一員として、様々な事案に対応します。連続した航海中や緊急事案対応中は、勤務時間を超過する場合がありますが、超過した勤務時間については手当が支給されます。また、帰宅後や休暇中であっても海で助けを待つ人のため、緊急で出勤が必要となる場合もありますが、対応した休日は別の日に振替となり、手当が支給されます。

なお、海上保安庁では、一部の巡視船に衛星通信サービス（スターリンク）を整備し、利用を開始しました。スターリンクは福利厚生用としても活用し、洋上でも、私有のスマートフォンなどから、家族に電話をしたり、SNS を見たりすることができるようになりました。今後、全ての大型巡視船、測量船へスターリンクを整備する予定です。

5 女性活躍推進等の各取組みについて

海上保安庁では、男性職員に限らず女性職員も、海上保安学校長や管区本部次長、本庁課長、海上保安部署長、巡視船艇船長や船艇幹部、パイロット、海上交通センター運用管制官等、さまざまな業務に従事しています。

また、ライフワークバランスの推進に関する取組みを行っており、男女を問わず育児・介護を行いながら働き続けられるよう各種両立支援制度を整え、職員一人ひとりの事情に応じた活用を推進しています。

これにより、出産後に職場復帰する女性職員も多く、男性職員も育児に伴う休暇・休業を取得しています。

6 その他

海上保安庁の業務などをより知ることができるホームページ、SNS 等を次のとおり紹介しますので、是非参考にしてください。

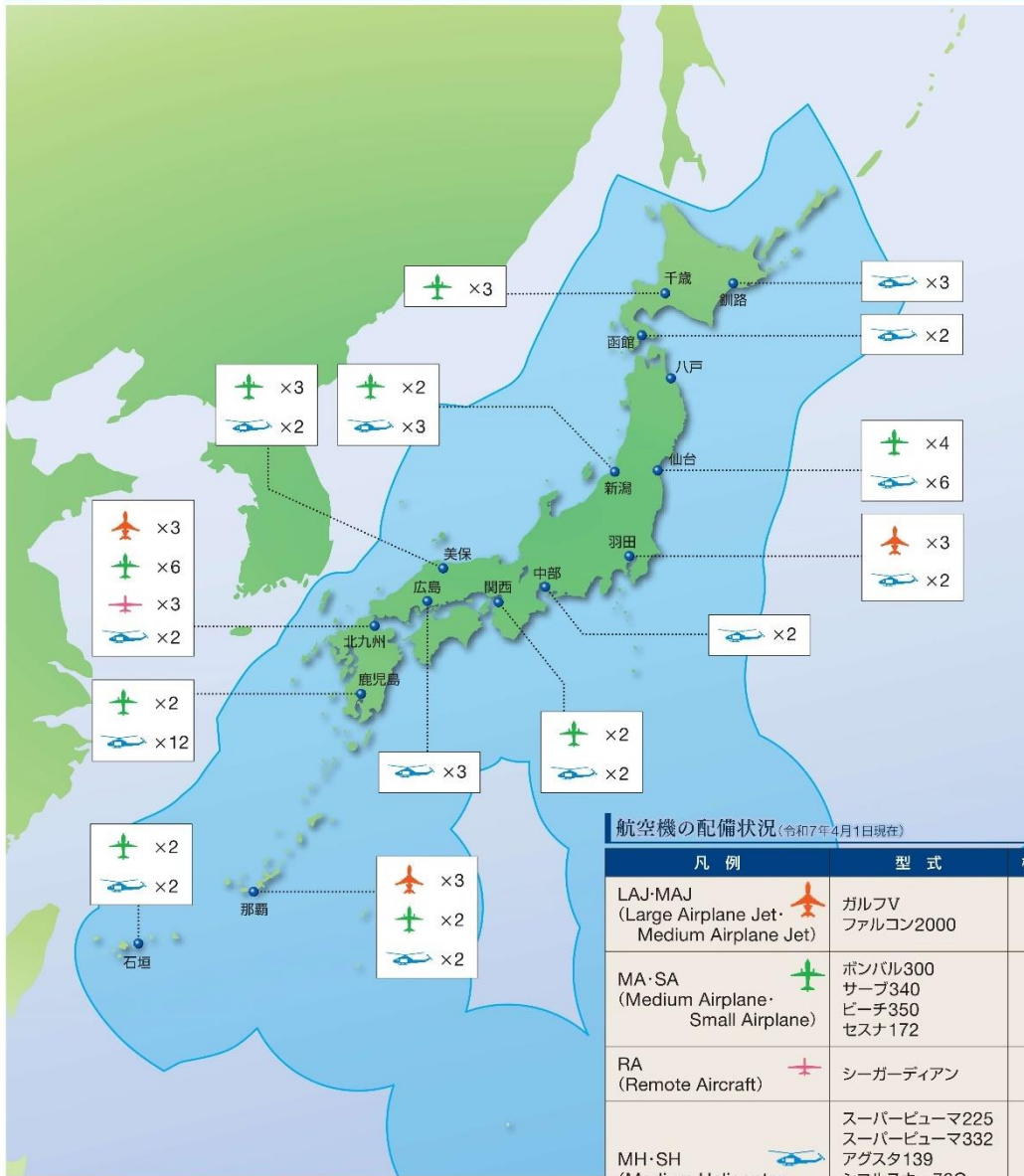
海上保安庁 採用 HP	海上保安庁 採用 X	海上保安庁 公式 Instagram	入学案内 パンフレット	通信コース リーフレット	航空整備コース リーフレット
					



海上保安庁関係施設



航空機の配備状況



航空機の配備状況 (令和7年4月1日現在)

凡例	型式	機数
LAJ・MAJ (Large Airplane Jet・ Medium Airplane Jet)	 ガルフV	3
	 ファルコン2000	6
MA・SA (Medium Airplane・ Small Airplane)	 ボンバル300	8
	 サープ340	4
	 ビーチ350	10
	 セスナ172	4
RA (Remote Aircraft)	 シーガーディアン	3
MH・SH (Medium Helicopter・ Small Helicopter)	 スーパービューマ225	15
	 スーパービューマ332	2
	 アグスタ139	21
	 シコルスキー76C	2
	 シコルスキー76D	14
	 ベル412	2
	 ベル505	4
合計		98

※ 中型ヘリコプターのうち17機はヘリコプター搭載型巡視船に搭載されており、図示されていない。



